

## 消えた宇都宮城

宇都宮城は戊辰戦争で建物の大半が焼失し、堀も次第に埋められて、現在では昔を偲ぶものはほとんどありません。しかし、宇都宮城が800年間も宇都宮の発展に大きな役割を果たしたことは忘れてはならないでしょう。



昭和10年代の堀と土塁

## 宇都宮城の発掘調査

平成元年から宇都宮城本丸跡の発掘調査が行われています。これまでに本丸の周りにあった堀の場所や幅・深さがわかったほか、門や櫓のあった場所を推定することができました。



江戸時代の堀の跡



発掘された遺構



大量に出土した土器

## 現代によみがえった宇都宮城

宇都宮城址公園は、江戸時代に宇都宮城本丸があったところです。ここに、昔どおりの位置、規模、構造を基本に土塁、堀、櫓、築地塀を復元しました。将来は将軍が泊まった御成御殿と、門の復元を目指します。



現在の宇都宮城址公園

## 宇都宮城の主なできごと

平安時代	11世紀	このころ宇都宮城がつくられる。
鎌倉時代	1189(文治5)年	源頼朝が奥州への進軍の途中、宇都宮に立ち寄る。 ※このころ宇都宮頼綱(連生)、百人一首の成立にかかわる。
南北朝時代	1341(興国2)年	南朝方の軍勢が飛山城を占拠し、宇都宮城の北朝方と対立する。
	1368(延保2)年	関東管領上杉憲顕、宇都宮城を攻撃する。
	1380(天授2)年	宇都宮基綱、裳原で小山義政と戦い戦死。
室町時代	1423(応永30)年	宇都宮持綱、鎌倉公方足利持氏に攻められて敗れ、殺害される。
	1455(享徳4)年	宇都宮等綱、古河公方足利成氏に敗れ、宇都宮城開城。
	1526(大永6)年	宇都宮忠綱、猿山で結城政朝と戦うが、その隙に叔父の芳賀興綱に宇都宮城を奪われる。
戦国時代	1539(天文8)年	結城政朝・小山高朝、宇都宮城下に進攻。
	1549(天文18)年	宇都宮高綱、那須高資と戦い、五月女坂で戦死。宇都宮高綱、真岡に退去。その後、壬生綱雄、宇都宮城を占拠。
	1557(弘治3)年	宇都宮広綱、佐竹義昭の支援を得て宇都宮城に復帰。
	1584(天正12)~	北条氏直、宇都宮城を攻撃。
	1585(天正13)年	※このころ、宇都宮国綱、多気山に本拠を移す。
	1586(天正14)年	皆川広照・壬生義雄、宇都宮城を攻撃し、城下に放火。
	1590(天正18)年	豊臣秀吉、宇都宮城に滞在し、宇都宮仕置を行う。
	1597(慶長2)年	宇都宮国綱、領地を没収される。
	1598(慶長3)年	蒲生秀行が城主となり城と城下町の改修をおこなう。
	1600(慶長5)年	徳川秀忠、宇都宮城に在陣し、中山道経由で関が原に向かう。
	1617(元和3)年	徳川秀忠、日光社参の際、宇都宮城に宿泊。(最初の日光社参・以後幕末まで19回を数える。)
	1619(元和5)年	本多正純が城主となり城と城下町の大改造をおこなう。
	1622(元和8)年	本多正純、領地を没収され出羽に流される。
江戸時代	1843(天保14)年	徳川家慶、日光社参の際、宇都宮城に宿泊。(最後の日光社参)
	1868(慶応4)年	戊辰戦争で城内の建築物が焼失。

※南北朝時代には年号が2つあります。

宇都宮市では、宇都宮城に関する資料を探しています。お心あたりの方は下記までお知らせください。

## 宇都宮市教育委員会文化課

〒320-8540 宇都宮市旭1丁目1番5号  
phone.028(632)2764 fax.028(632)2765

R100  
古紙配合率:100%  
再生紙を使用しています。



# 宇都宮城



# 宇

都宮城は、平安時代後期に築かれたといわれています。

鎌倉時代以後は、宇都宮氏の居城でした。宇都宮氏はこの城を根拠地にして、二荒山神社の祭祀を行い、周辺を支配していたのです。

このころの城のようすはよくわかりませんが、鏡が池という水辺はさんで、二荒山神社が北に、宇都宮城が南にあり、城主は祭礼などのときは、威儀を整えて城から神社に向かったことでしょう。



中世の宇都宮のようす

# 南

北朝時代から戦国時代は、日本中が戦乱に巻き込まれましたが、宇都宮城とその周辺もたびたび戦いの舞台となりました。戦国時代の終わりごろには、後北条氏の攻撃によって、城下町が焼かれたこともあります。

このころの宇都宮城は、敵の攻撃に備えるため、深い堀と高い土塁(土手)をもつ守りの固い城になっていました。



戦国時代の堀と掘立柱建物跡

# 約

500年間宇都宮を支配してきた宇都宮氏は、豊臣秀吉に滅ぼされました。江戸時代には、譜代大名の居城となりましたが、そのなかでも本多正純は、城と城下町のつくりかえを行いました。現在の宇都宮市中心部の骨格はこのときつくられたといわれています。

江戸時代の宇都宮城は、東西・南北とも1キロ近い大きな城でした。天守閣はなく、石垣も一部にいただけでしたが、城主の居館をはじめ、いろいろな施設がたち並び、二階建ての櫓もありました。



宇都宮御城内外絵図



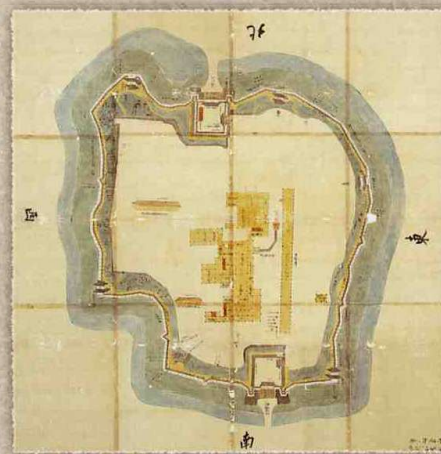
江戸時代の宇都宮城推定図

本丸と二の丸を北から見たところでは、

図の中央上よりの堀に囲まれている場所が本丸で、将軍が宿泊する御成御殿が建っています。右下は二の丸御殿で、城主が居住し、公式行事などを行う建物です。

# 宇

都宮城の最大の特徴は、将軍が日光参詣に行くとき宿泊したということでしょう。将軍の行列はとても人数が多かったので、城も城下町も大変にぎわいました。今も残る絵図面のなかには、本丸に大きな建物が描かれているものがあり、これは将軍の泊まる御殿だといわれています。将軍の日光参詣(「日光社参」という。)は全部で19回ありました。



宇都宮城本丸將軍家御泊城ノ節建物ノ図

「釣天井事件」  
つて何のこと？  
宇都宮城主・本多正純が日光社参から帰る将軍を、からくり仕掛けの天井をつくって暗殺しようとしたという事件のことです。もちろん事実はありません。正純が突然宇都宮城をとりあげられて、出羽(秋田県へ)流されたことから生まれた創作です。その後、講談・芝居の題材となり、全国的に広まりました。